

## 哲学教育ワークショップ

### 「小中学校の特別な教科「道徳」の教科書と使い方を考える」

山田圭一(千葉大学)

長らく教科外活動として行われてきた道徳の授業が小学校と中学校で「特別な教科」としてスタートし、現在主たる教材として検定教科書を用いた授業が行われている。そこで本 WS では、「考え、議論する」ことを目指す教科「道徳」における教材のあり方とその活用の仕方について検討してみたい。

現在の道徳科の問題点としてしばしば挙げられるのは、「結論が決まっていしらせる」「当たり前でつまらない」という点であり、これらはまとめて、価値のおしつけになっているという批判と捉えることができる。あるいは、「考えが展開しない、進展がない」「物語が現実離れしたものが多い」という点も指摘され、これらは対話や思考をもたさないと批判と捉えることができる。

「考え、議論する」道徳を目指しているにもかかわらず、実際の授業でその方向に踏み出せない理由としてはさまざまなことが考えられるが、そこには先生たちが「考え、議論する」授業のやり方が分からないという点だけでなく、教科書がまだその方向に十分対応しきれていないという点も含まれているように思われる。

この点に関しては 2020 年6月に日本学術会議が出した報告「道徳科において「考え、議論する」教育を推進するために」(以下、「2020 年学術会議報告」と省略)のなかでも指摘されている。そこでは価値注入的な道徳教育の問題点として、反省を経ずに素朴かつ直感に頼って道徳判断がなされてしまうこと、判断の根拠が問直されないことなどが挙げられたうえで、「よりよい道徳教育のための四つの展望」のうちで哲学対話で発揮される対話的思考などを含む「哲学的思考の導入」と、教材が暗黙に示している価値観の検討を含んだ「教科書の検討と作成」が提案されている。

しかし、哲学対話と教科書という組み合わせは、一見するとあまり食い合わせがよくないようにも思われる。哲学対話では多くの場合、参加者同士が問いを出し合い、それぞれの関心に応じて対話の歩みが進められる。それに対して、各教科の教科書はあらかじめ達成目標が決められており、道徳であればそこで学ぶべき徳目がある程度決まっている。では、現行の道徳の教科書を使った哲学対話が可能だとすればそれはどのようなものとなるだろうか。そして、「考え、議論する」道徳を体現するために道徳の教科書はどのようなものであるべきだろうか。

これまで道徳教育についての WS や哲学対話についての WS は本学会を含めて何度か行われてきたが、本 WS では以上の問題意識のもとで道徳教育の教材としての教科書焦点を当てて、教科「道徳」のあるべき姿について考えてみたい。この問題を感じるために、まず以下の二組に具体的な授業実践を踏まえて提題していただく。

#### (1)「教科書と哲学対話を組み合わせた道徳科教育:コロナ禍でのオンライン実施」

永井玲衣(上智大学博士課程)、前田有香(立教大学研究助手)、幡野雄一(NPO 主催)

本発表では、現行の教科書を使って、またそこに例示されている問いをつかひながら、それを哲学対話として実施した実践

例を紹介する。コロナ禍であり、Zoom オンラインで、4~6 年生をそれぞれの学年で集め、それぞれの学年の教科書を使って実施した。「金魚鉢」と呼ばれるディスカッション方法が有効であることや、同じ問いでも児童から出される多様な意見を結び合わせることで、深く「考え、議論する」教育が可能なることを録画面面をお見せしながら、紹介します。

#### (2)「学校と教科書と教員と:本当に学校は教育的なのか?」

中川雅道(神戸大学附属中等教育学校)、上村幸(神戸大学附属中等教育学校)

神戸大学附属中等教育学校(中高一貫校)の2年生の「特別な教科 道徳」の時間に、教科書「新しい道徳 2」(東京書籍)に掲載されている教材「我、ここに生きる」を読んだ後に「人は何のために働くのだろうか」という問いを提示して p4c を行なった。2020 年学術会議報告に基づいて行われた本実践の学校の体制、指導案、授業分析が「神戸大学附属中等論集第5巻」に掲載されている。中学校2年生の授業実践の映像について考え、教科書を含む学校の体制、ひいては日本社会そのものに、多様性と対話が根付くのかどうかを考えてみたい。

特定コメンテーター:押谷由夫(武庫川女子大学教授、東京書籍小中道徳教科書編集代表)

・司会:阿部ふく子(新潟大学人文社会科学系准教授)

ワークショップの進め方としては、それぞれの提題とコメントの後に、フロアの参加者同士のディスカッションを行い、それにもとづき提題者やコメンテーターとフロアの参加者を交えて、望ましい道徳の授業と教科書のあり方について議論していければと考えている。